

学 校 名	稲城市立長峰小学校
コーディネーター数	4人(5中ブロック 稲城第五中学校地域支援本部(地域学校協働本部))
ボランティア数	80人

### 活動の概要

E S D推進をしている本校の取り組みの一つに地域との協働がある。生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域について学ぶ中で、大勢の地域の方に学習に入ってもらった。

児童はたくさんの事を学び、地域に愛着をもつことができた。

(今年度活動を共にしていただいた方々)

小売店、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、保育園、スポーツクラブ、民間企業、市立体育館・総合施設、市役所関係、公園管理事務所、社会福祉協議会、駐在所、米・梨農家、里山を守る会、マンション組合、近隣文化施設、体育振興会、プロスポーツ団体、料理研究家、読み聞かせサークル、学生ボランティア、地域各種団体、スクールガード・リーダーなど

コーディネーターと児童の様子



コーディネーター(本市では『学校支援コンシェルジュ』の名称で活動)の役割  
学校と地域をつなぐ橋渡しをする。

- ・4月当初に、5中ブロック内のボランティア登録者を募り、一覧表にまとめる。
- ・学校からの要望を聞き、ボランティアの紹介や地域の企業や各種団体、商店等との橋渡しをする。
- ・コーディネーター自身が、「地域をよく知っている人」として、学習に参加したりフィールドワークに付き添ったりする。

### 活動上の工夫や配慮等

- ・年間3回の5中ブロック学校支援コンシェルジュ委員会(参加者:各校の校長、事務局の副校長、コーディネーター4名)を開き、各学校の活動の様子やボランティア状況や今後の活動について共通理解を図っている。
- ・コーディネーターの仕事について、校内をはじめ、地域の方に理解してもらえよう、地域の会合で活動について校長やコーディネーターが紹介している。
- ・コーディネーターの名刺を作り、PRの一つとして活用している。

活動の成果や感想 (実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など)

- ・自分たちが知りたいと思ったことを分かりやすく教えてくれて、嬉しかった。(3年児童)
- ・行ってみたい会社に行くことができ、どんな会社なのか、分かってよかった。(2年児童)
- ・子供に教えることを通して、自分のやってきた事の振り返りができた。(ゲストティーチャー)
- ・地域児童の見学を引き受けたのは初めてだったが、児童の率直な感想を聞いて、会社にとっても有意義な時間となった。今後も引き受けたい。(民間企業)
- ・子供から地域の事を聞いて、親として一緒に考えていくことが必要だと感じた。(保護者)
- ・コーディネーターの方が地域探検の交渉をしてくださり、円滑に準備が進んでありがたかった。(教職員)